

平成 30 年 6 月 19 日現在

機関番号：14602

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26370766

研究課題名(和文) 中世密教聖教にみる知の構造に関する基礎的研究 『覚禅鈔』を中心に

研究課題名(英文) Basic study on sturcture of the intellect to understand from the esoteric Buddhism sacred book in the Middle Ages -Mainly on the Kakuzensho

研究代表者

森 由紀恵 (Mori, Yukie)

奈良女子大学・大和・紀伊半島学研究所・協力研究員

研究者番号：70397842

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：日本中世成立期に編纂された真言宗小野流の教義書『覚禅鈔』は、政治史・外交史・美術史など多分野にわたり情報を含む歴史資料として注目されている。本研究では、『覚禅鈔』を歴史資料として活用するため『大正新修大蔵経』図像部所収『覚禅鈔』のデータベース(年号・書名・図像)を写真帳などによる調査・校訂を行いつつ作成し、年号データベース・図像データベースは報告書により公表した。また、データベース活用の結果明らかになった『覚禅鈔』と院政との関係・大和国における『覚禅鈔』の伝来過程に関する論文を公表した。

研究成果の概要(英文)：The Kakuzensho was written for the establishment period in the Japanese Middle Ages. This book wrote down the creed of the Ono-ryu school, the historical facts of the political history or history of diplomacy or art history. Therefore the Kakuzensho is attracting attention to its historical document. In this research, I revised it with the investigation into the Kakuzensho, published a database for the Kakuzensho Chapter of iconography Sects of Taisyō Shishū Daizō-kyō Sutra(the era name, the iconographic Buddhist image name) and effective use of it. As a result of having utilized that, I published the article about Cloistered rule and the Kakuzensho and how the Kakuzensho was handed down to in Yamato Province.

研究分野：日本中世史

キーワード：日本中世史 密教 宗教史

## 1. 研究開始当初の背景

日本中世成立期の宗教史研究において、分権的な中世国家を支える宗教的イデオロギーの形成過程やその実態を解明するために、宗教的教義を記した聖教の活用が不可欠である。特に中世成立期に院政を行った上皇(法皇・院)の宗教政策が反映されているといわれる真言宗小野流の聖教『覚禅鈔』は、真言密教の修法別の百科事典と評される聖教で、宗教史研究者にとっては基礎的資料であるだけでなく、政治史・外交史・美術史に関する情報を含むことから、当該期の歴史資料としての価値も注目される聖教である。しかし、『覚禅鈔』の刊本である『大正新脩大蔵経』(以下『大正蔵』)画像部および『大日本仏教全書』には錯簡もみられることなどから、両刊本をそのまま歴史資料として活用することは難しい状況であった。

1990年代から2000年代にかけて、『覚禅鈔』を所蔵する寺院および関係諸機関における調査が進捗し、『覚禅鈔』諸本の調査結果が公開され(『仏教美術財団上野祈年財団助成研究会研究報告書 画像蒐成 万徳寺本覚禅鈔』1994~2000年・『勸修寺本覚禅鈔影印本』2000~2003年など)この結果『大正蔵』所収『覚禅鈔』を補完・校訂するための環境が整備された。

以上のような日本中世史研究の研究状況および研究環境の整備が背景となり、本研究は着想された。

## 2. 研究の目的

本研究では、以下の2点を研究目的とした。(1)学際的な情報を含む『覚禅鈔』を、分野横断的に活用できる歴史資料とするため、『覚禅鈔』諸本の中でも研究者が多用する『大正蔵』画像部所収『覚禅鈔』の書名・年号・画像に関するデータベースを作成するという『覚禅鈔』の基礎的研究を行い、中世成立期の知の構造を支えた知的・人的ネットワークを明らかにすること。

(2)王権の政治的関与をうけながら成立した『覚禅鈔』のデータベースの作成過程から得られた知見および作成したデータベースの活用によって、国家と宗教の関係が密接になる中世成立期の中世的国家像や中世的天皇像のあり方など、中世社会の宗教的秩序の解明につなげること。

## 3. 研究の方法

### (1)データベースの作成・公開方法

研究代表者がExcelにて入力済であった『大正蔵』画像部所収『覚禅鈔』の書名・人名・年号データをもとに、研究協力者に依頼してデータの校正作業を行った。校正作業にあたって、OCRによって『大正蔵』のテキストデータ化を試みたが、梵字や異体字・正字などの変換の精度を上げることができなかったため、本研究では採用しなかった。校正作業と並行して、錯簡が疑われるデータ

については、『勸修寺本覚禅鈔影印本』や東京大学史料編纂所および金沢文庫などにある写真帳による校訂作業を行った。その結果、検討の必要があるデータが予想以上に多かったため、本研究期間内に公表可能な年号データベースの校訂作業を優先的に進め、最終年度に報告書にて公表した。

また、データベースの校正作業を進める中で、『覚禅鈔』諸本の特色は画像の比較をすることにより確認がしやすいことが明らかになったため、当初の研究計画に加え『大正蔵』画像部『覚禅鈔』の画像データベースをExcelにて作成した。画像データは、画像No.が付されている諸仏だけでなく、壇図や字輪観・三昧耶形なども収録し、これらのデータを報告書にて公表した。

### (2)データベースの活用と考察

年号データベースの活用の方法として、年号データのグラフ化を試み『覚禅鈔』の知的情報の年代別分布を明らかにした。その結果により、『覚禅鈔』成立期の『覚禅鈔』と院政の関係および『覚禅鈔』の伝来過程の歴史的特色について考察し、研究報告および論文執筆により報告した。

## 4. 研究成果

### (1)年号データベースの公表とその活用

『大正蔵』画像部所収『覚禅鈔』の年号データベースは、「年号データ」(西暦(4桁)・月(3桁)・日(2桁)の算用数字)・「項目」(年号データ確定のための年号)・「所見」(『大正蔵』画像部に記載されている年号)・「覚禅鈔巻数」・「巻名」・「大正蔵画像部巻数」・「頁数」・「段」・「備考」を1件としてデータを入力し、昇順に並べ替えて索引形式として体裁を整え、「覚禅鈔 年号索引(稿)」と題して研究成果報告書において公表した。当初の予想以上に『大正蔵』の錯簡が多かったため、勸修寺本・西南院本・金沢文庫本などの写真帳による校正をできうる限り行った。また、元号と干支がずれている場合には『日本暦日便覧』などをふまえて検討を行い、明らかに誤記と判断できる場合には『長秋記』・『中右記』をはじめとする当該期の貴族の日記などの関係史料を活用した校訂を行い、年号データベースとしての精度を高めた。この結果、本研究が目的とした『覚禅鈔』が分野横断的に歴史資料として活用される基礎的環境を整えることができた。

また、校訂および写真帳による校正の結果、『覚禅鈔』全体の特色を提示することが可能になった。年号データの件数の年別の推移を確認すると、年号データが20件を超える年は白河院政期後半からで、鳥羽院政期には計7年と全時代を通じて最も多く、後白河院世紀には1年にとどまり、白河院政期の後半から鳥羽院政期の間に『覚禅鈔』の年号データが集中している状況が確認できた。また、年号データの巻数の特色をふまえると、当該期の年号データは院の密教興隆政策を支えた

真言宗小野流の高僧寛信に関わるものが中心であることが判明した。この傾向は、従来研究史で指摘されていた白河院政期後半以降に院の専制化が先鋭化する中で行われた密教興隆政策、続く鳥羽院政期における密教聖教等の整理・統合の動きを背景とするものと考えられ、本データベースの分析から、『覚禅鈔』と院政との関係をデータによっても裏付けることができた。以上の成果を、第22回公開シンポジウム「人文科学とデータベース」(2017年)にて報告し、同報告の内容を論文として執筆し公表した。

## (2) 画像データベース

画像データベースは、「大蔵経巻数」・「頁数」・「段」・「覚禅鈔巻数」・「巻名」・「SAT 頁数」・「画像 No.」・「所見」・「底本」・「備考」を1件としてデータを入力し、「覚禅鈔 大正新脩大蔵経画像表」として研究成果報告書に掲載し公表した。このうち、「SAT 頁数」は、当初は掲載していなかったが、本研究の成果を2016年に第21回公開シンポジウム「人文科学とデータベース」(2016年)にて報告したところ、同年に『大正蔵』画像部の画像データが IIF にて公開されるとの指摘を受け、本画像データベースの課題であった『大正蔵』の画像の取り込み方法を解決する糸口として、2016年に公開された SAT 大正蔵画像 DB の頁数を記載することで解決した。これにより、本画像データベースと SAT 大正蔵画像 DB を関連づけるための基礎情報を付すことができた。現在 SAT 大正蔵画像 DB では、面数・臂数・持物・印相・装身具などから諸尊を検索する機能や、万暦版大蔵経のデジタル版の公開など、諸検索機能や他のデジタルデータとの関連づけが更新されていることから、本データベースと SAT 大正蔵画像 DB を関連づけにより、『覚禅鈔』と他聖教との比較検討がより充実することが予想される。

また、この「覚禅鈔 大正新脩大蔵経画像表」に千光寺本の「巻数」・「巻名」・「所蔵」・「備考」を併記した「覚禅鈔 大正新脩大蔵経・千光寺本画像比較表」を作成し、研究成果報告書に掲載し公表した。千光寺本は『大正蔵』所収『覚禅鈔』の主な底本である勸修寺本とは異なる情報を含む本であるため、『大正蔵』所収『覚禅鈔』と千光寺本との比較検討を容易にする本データベースは、『覚禅鈔』諸本の伝来過程や性格について、画像を通じて判断するための基礎的なデータを提供することが可能になった。

## (3) データベースの作成・活用による考察

### 『覚禅鈔』と天台宗

『覚禅鈔』書名データベースを作成する過程で、真言宗小野流の聖教である『覚禅鈔』の特定の巻において天台宗関係の聖教が多用されていることが明らかになった。書名データベース作成のためには当然のことながら書名を特定する必要があるが、『覚禅鈔』には書名が明記されているものだけでなく、「或曰」など書名が明記されていないものも

存在するため、本文の内容から書名を特定する作業を行った。その過程で、『覚禅鈔』には、天台宗法漫流静然著『行林抄』と類似する箇所が多出ることが判明した。『覚禅鈔』には『行林抄』を引用した趣旨が明記されていないこと、『覚禅鈔』と『行林抄』は成立年代が近接していることから、両聖教のこのような関係性は、『覚禅鈔』が天台宗の聖教『行林抄』を底本としただけでなく、『覚禅鈔』と『行林抄』が同じ底本を利用したと判断できる可能性を含む。このような両書の関係は『覚禅鈔』成立の背景にある宗教界の人的・知的ネットワークの核となった院の関与を反映していると考えられる。

本研究では、書名を特定する困難さから書名データベースの完成にまでいたらず、『覚禅鈔』と『行林抄』の関係の全体像を公表できなかったが、『覚禅鈔』成立の背景すなわち中世成立期の宗教的秩序の実態解明にせまる糸口を明確にすることができた。

### 『覚禅鈔』と南都諸寺院

年号データベースの作成にあたり、東京大学史料編纂所において西南院本『覚禅鈔』の写真帳による校正を行っていたところ、『覚禅鈔』と東大寺・興福寺をはじめとする南都諸寺院の関係を解明することができた。

西南院本の奥書情報によると、西南院本『覚禅鈔』は、14世紀はじめに海龍王寺・内山永久寺智恵光院・田原本寺など南都諸寺院に所蔵された『覚禅鈔』の書写により成立した。

また、16世紀までには東大寺蓮乗院に所蔵され、最終的には高野山釈迦文院の龍剛に購入されることとなった。『覚禅鈔』を所蔵したこれらの南都諸寺院は真言または真言律関係の寺院・院房であること、田原本寺が大和国の有力名主層や大和武士らにより信仰・運営されていたから、『覚禅鈔』は真言宗寺院にかぎらず真言律や真言の行法を行う東大寺などにも所蔵されたこと、『覚禅鈔』が鎌倉期の段階で法流の重書としてだけでなく民間信仰の寺院にも所蔵されたことなど、『覚禅鈔』が宗派的・階層的に普及していた状況を具体的に確認することができたため、この成果を雑誌『古代学』に投稿し公表した。

このように西南院本『覚禅鈔』の奥書から、南都諸寺院に『覚禅鈔』が伝来したルートを解明することができたが、東大寺蓮乗院に『覚禅鈔』が伝来した背景などの解明は課題として残った。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 4件)

森由紀恵、「東大寺蓮乗院と『覚禅鈔』」、『古代学』、査読有、10号、2018年、56~72頁  
森由紀恵、「『覚禅鈔』データベースの活用年号・画像データベースを中心に」、『第

22 回シンポジウム人文科学とデータベース  
発表論文集』、査読無、22 巻、2017 年、17  
～22 頁

森由紀恵、「『覚禅鈔』データベースの構築」  
『第 21 回シンポジウム人文科学とデータ  
ベース発表論文集』、査読無、21 巻、2016 年、  
37～42 頁

森由紀恵、「福原遷都と『帝都』」、館野和  
己編『日本古代の都城と都市』、査読無、2015  
年、305～327 頁

〔学会発表〕(計 4 件)

森由紀恵、「東大寺と『覚禅鈔』」、奈良女  
子大学古代学学術研究センター月例研究会、  
2017 年

森由紀恵、「『覚禅鈔』データベースの活用  
年号・図像データベースを中心に 」、第  
22 回公開シンポジウム「人文科学とデータ  
ベース」、2017 年

森由紀恵、「『覚禅鈔』データベースの構築」  
第 21 回公開シンポジウム「人文科学とデー  
タベース」、2016 年

森由紀恵、「『覚禅鈔』にみる密教聖教の知  
の構造」、奈良女子大学古代学学術研究セン  
ター月例研究会、2015 年

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

森 由紀恵 (MORI, Yukie)

奈良女子大学・大和・紀伊半島学研究所・  
協力研究員

研究者番号：70397842

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：

### (4) 研究協力者

大島佳代 (OSHIMA, Kayo)

河合咲耶 (KAWAI, Sakuya)

村上菜菜 (MURAKAMI, Nana)